

## Ⅰ 学校の教育目標

たくましく ゆたかに 立つ

## Ⅱ 育成を目指す資質・能力

自己を客観的に捉える力

## Ⅳ 学校評価4点セットの学力の重点目標

基礎学力を身につけ、学びに向かう児童集団の育成・自他の違いを認め、互いを尊重する児童の育成

## Ⅴ 学校評価4点セットの学力に関する達成指標

○学期毎の単元テストにおいて、期待値未満の児童を30%以下にする。○「勉強(新しいことを学ぶこと)は好きです。」の問いに肯定的に回答する児童の割合を全体で80%以上にする。○「単元末・単位時間毎のふりかえりの場面で、わかったこと・まだわからないこと・もっと知りたいこと等自分の考えを持つことができた」の問いに肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

Ⅵ 授業改善の取組(「**授業改善の5点セット**」目標達成に向けた組織的な授業改善)

①授業改善 テーマ	自ら学び、学び続ける子どもの育成
②授業改善の 重点	自立した学びにつながる見通し・ふりかえり・自己調整

## (研究仮説)

授業中のあいあいタイムにおいて、学習方法の見通しを持つ時間を確保し、学びの結果にメタ認知による評価を加え、自己調整しながら深めていく力の育成を探り実践していけば、自ら学びに向かう児童集団が育つであろう。

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
1 学期	(ア)メタ認知の向上のために、授業の終末のふりかえりにおいて、自ら考える時間を保障する。 (イ)学び続ける子の育成のために「あいあいタイム」を実施し、学び方を選んだり自分で計画を立てたりする経験をさせる。	(ア)毎時間のふりかえりで自己・他者評価を行ったり、自己調整する時間を保障する。 (イ)学期に1時間以上「自立した学習者」を生む授業実践を行う。	・7月の児童アンケートにおいて肯定的に回答する児童の割合 (ア)「ふりかえりの場面で、わかったこと・まだわからないこと・もっと知りたいこと等自分の考えを持つことができた。」を80%以上にする。 (イ)「勉強(新しいことを学ぶこと)は好き。」を80%以上にする。	

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
2 学期				

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
3 学期				

## Ⅲ 児童・生徒の課題

学力状況について		学習状況について
児童 課・ 題生 徒の	令和6年1月実施の日田市学力調査において、国語・算数ともに全般的に全国平均より上回っている。C層が減り、2極化が解消されつつある。一方で多くの問題を時間内に的確に読み解く力においては、個人差が大きく課題が残る。また、教師が準備した学習方法をきちんとこなすことができる子は多い。反面、自分で考えて学びを深める力は十分に伸ばせているとはいえない。	・「勉強(新しいことを学ぶこと)は好きです。」の肯定的回答は85%だが、D評価(いいえ)は5%で同じ児童(毎学期D)が多いので見逃せない。 ・テストや家庭学習に対する取組状況も個人差が大きい。 ・「くつつき言葉」を意識するように全校で掲示・活用した。板書に位置づけることで使用頻度は増えたが使いこなせるまでには至っていない。シンキングツールの活用や互見授業での見合いにより学習意欲は高まった。

Ⅶ 学習定着状況の把握とフォローの取組 および  
個に応じた学習の取組(補充学習・習熟度別指導等) ※評価はプルダウンで選択

	重点的取組	取組指標	評価
1 学期	基礎基本の学力保障 学習好感度の向上	・担任は週2回の朝15分間のドリルタイム(説明文・物語文の読解、条件作文、計算練習、キュービナ等)を実施し、基礎基本の力を徹底する。	
2 学期			
3 学期			

◎＝達成(10割以上)、○＝概ね達成(8割以上)、△＝やや未達成(6割以上)、×＝未達成(6割未満)

## Ⅷ 学校・家庭・地域の協働の取組 ※評価はプルダウンで選択

	重点的取組	取組指標	評価	1 学期
家 庭	家庭学習量の確保と質の向上 読書習慣の確立	・保護者は年3回の生活習慣強化週間において、「生活万善簿」を活用し、各学年の目標家庭学習時間の実現を目指す。 ・保護者は月2回の「家読デー」において、低15分・高20分の読書時間の確保を目指す。		
地 域				2 学期
				3 学期

◎＝達成(10割以上)、○＝概ね達成(8割以上)、△＝やや未達成(6割以上)、×＝未達成(6割未満)

## Ⅸ 令和7年度日田市アクションプランの達成指標・取組指標

## 1 学校評価4点セットの達成状況

令和7年度学校評価の4点セット 達成指標(学力)の評価	1学期	2学期	3学期	※学期末の評価を1～4で入力 (達成指標が複数ある場合は、平均を四捨五入した数値)

※プルダウンで数値を選択

## 2 取組指標

①「新大分スタンダード」と自校の【③取組内容】に基づいて、単元計画と本時案(略案)を作成して、授業を担当する全教員が11月までに公開授業(互見授業含む)を実施する。	授業担当者 数  人	授業を公開した教員の割合	
		7月末時点	11月末時点
		%	%

※割合(%)は四捨五入して整数表示

②	管理職または教務主任等は、授業観察シートをもとに、経験の浅い教員(採用10年以内)1人に対し学期に3回以上授業観察を行う。	1 学期		2 学期		3 学期	
---	---	---------	--	---------	--	---------	--

※プルダウンで○、×を選択

③	計画的に互見授業を実施し、全教員が学期に1回以上自校の教員の授業を参観する(校内研を除く)。	1 学期		2 学期		3 学期	
---	--	---------	--	---------	--	---------	--

※プルダウンで○、×を選択